桐生の先覚者紹介冊子刊行

ふるさとの風第六集
郷土文芸読本第四巻

『岸直枝伝』の発刊に寄せて

副会長　原沢　礼二

おかげさまで『ふるさとの風第六集・岸直枝伝』が発刊することができました。発刊することができましたのは、野間清治顕彰会の役員や理事の方々、並びに会員各位から寄せられた有形無形のご支援の賜物と、心から感謝申し上げます。

特に公私ともにご多忙の中、心温まる序文をお寄せ頂いた岸芳正先生、清水俊衣様、竹田賢一様にはほんとうにありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

岸直枝先生の一生は、文字どおり波乱万丈でした。幼少の時に神戸市でのなれない洋風の生活、帝国女子医専卒業後、父のあとをついで高木医院の後継者となり、医療の道に専念されました。

その後、高木病院の開院、岸病院の開院、そして大事業となった、わたらせ養護園の開設などに尽力されてきました。

岸直枝先生の偉大な業績にガールスカウト運動への参加と協力がありました。そして役員の皆様方の強い要請に応えて、ガールスカウト日本連盟会長に就任されました。

御仏の慈悲の心で医療の道を歩んでこられた岸直枝先生は、社会福祉や社会奉仕に一生を捧げてこられました。

私は岸直枝先生の伝記を執筆させて頂きながら、先生の苦難の歴史や、崇高な生き方に何回も目頭が熱くなる思いがしました。

この街から第二、第三の岸直枝先生が現れることを、強く念願しております。

郷土文学の振興を図る

副会長・読書推進部長

須田利一郎

郷土文芸読本第四巻が十月十六日の顕彰碑献花式の日に発刊される。第一巻小説家、第二巻詩人、第三巻俳句作家に次いで第四巻は歌人を収録している。

地元桐生にも文学を志した人は沢山いる。それらの人々を有名無名を問わず取り上げて、人と作品を紹介することが、地域文学の振興につながるとの考えから発刊を続けている。

野間清治が講談社を興したきっかけは、弁論の記録を活字化して多くの人に読ませることにあった。続いて講談を語ってもらって、その内容を本にまとめて出版した。さらに吉川英治らを育てて、大衆文学を世に広めた。大衆文学の生みの親は講談社だったとも言える。

このように野間清治は出版を通じて文化の大衆化に大きく貢献した。

そのことを思うとき、野間清治顕彰会読書推進部の出版活動は、野間清治の精神に則ることでもある。

昨年の坂口安吾文学碑の建立は、主体こそ異なるが、メンバーの多くは読書推進部につながる人達である。また現在、桐生タイムス誌上に「桐生広域文学碑紹介」が掲載されている。これは安吾碑建立委員会が、桐生文学碑保存委員会と名を変えて、行っている事業である。

これらの事業の発端は、野間清治顕彰会に読書推進部が設けられたことによる。読書推進部が起こした小さな波が、大きなうねりとなって地域を浸しつつある。

文芸という形で残されているものには、その時代、時代を真剣に生きた人々の心情がこめられており、文芸は人の魂の記録とも言える。社会の大きな流れが歴史なら、文芸は個人の歴史なのである。

今後も野間清治顕彰会活動の柱として地域文学の振興・もう一つの活動の柱に読書推進がある。

読書推進は自分で読み、楽しみを伝えること、子どもの読書活動は活発だが中高年の読書支援につながる活動も取り組んで行きたい。